

放課後等デイサービスの利用に関する課題について

I. WG からの報告

○相談支援事業所へのアンケート結果から見えてきた課題（再掲）

- ⇒必ずしも早いもの勝ちではないが、現状として、療育の必要性だけではなく、預かり目的や、福祉とのつながりを求める保護者のニーズによって放デイの利用につながっているケースも多い。
- ・ニーズに合った地域の受け皿や、保護者の相談先の確保が必要ではないか。

○放課後等デイサービス事業所へのアンケート結果から見えてきた課題

(1) 必ずしも早いもの勝ちになっている訳ではないが、保護者が気づくタイミングによっては、就学前ギリギリに動き出し、希望どおりに利用できないことがある。

⇒周知の必要性

- ・放デイ利用の流れについて就学前相談会の機会等で、保護者に周知する。（障がい福祉課）
- ・児童館・児童クラブは基本的に障害の有無に関わらず受け入れ可。万が一受け入れが困難な場合は早めに保護者に伝え、必要に応じて地区相談につないでもらう。（放課後児童育成室）

(2) 求めている支援ニーズに答えられる事業所が見つからないことがある。

⇒事業所情報の周知

- ・事業所の特色が分かるような一覧を作り、ホームページに掲載する。（基幹相談支援センター、障がい福祉課）
- ・事業所が不足している地域や、求められている療育内容等について整理し、必要時行政から発信していく。（障がい福祉課）

(3) 児の行動や、支援ニーズに対するアセスメントの重要性

- ・関係者を増やし、多角的な視点で見る。（チームアセスメント）
- ・複数の関係機関が関わり、うまくいった好事例の紹介。
- ・教育と福祉の連携を強め、児童館等も含め、教育側で困った時の福祉の相談先の周知を引き続き行っていく。（障がい福祉課、学校教育課、高校教育課）
- ・相談支援事業者連絡会や児発管MT等での支援者の資質向上に向けた取り組みの継続。
- ・本人のニーズと保護者のニーズを分けて整理できているか。
- ・発達段階に応じて利用頻度の見直しを行うなど、放デイの卒業も見据えながら、地域で過ごす力をつけるという視点を持つことができているか。（インクルージョンの視点）

(4) 療育目的以外のニーズに対して、どこがその役割を担っていくのか。

- ・預かり、本人の居場所、保護者の相談先など、療育以外のニーズをどこが担っていくのか。